

名取市産学官連携促進事業審査会会議録

1. 会議の年月日

令和5年7月11日（火） 午前9時00分から午前10時00分まで

2. 会議の場所

名取市役所 議会棟第3委員会室

3. 出席委員

小島委員長、小畑委員、齋藤委員

4. 会議に出席した者

商工観光課 渡邊課長、松浦主幹兼商工振興・雇用促進係長、工藤主査

5. 開会時間

午前9時00分

6. 会議の概要

(1) 開会

本日の会議について、「名取市審議会等の会議の公開に関する要綱」に基づき公開しているが、傍聴者はいない旨を報告し、開会した。

(2) あいさつ（小島委員長）

名取市産学官連携促進事業の今年度1回目の審査会となる。

今回は令和3年度からの継続事業案件2件について審査を行っていただくこととなる。

本事業の活用により、市内産業の活性化や教育機関との交流や連携が広がることを期待しているので、ご審議の程よろしくお願ひしたい。

(3) 協議

(ア)名取市産学官連携促進事業補助金交付申請書の審査等について

事務局より本日の審査方法及び審査ポイントについて説明し、審査項目毎に平均3点以上を事業採択要件とする旨提案し、了承された。

■「とびだせ！ 閑上しらすプロジェクト」（午前9時05分～午前9時30分）

有限会社まるしげ 渡部正守

尚綱学院大学（教育研究支援課）佐々木真也

申請者より申請資料に基づき、昨年度実施内容と今年度の計画内容について説明を行い、

質疑応答を行った。

Q：今年度事業の実施にあたり、学生はどのように関わるのか。

A：動画作成の企画から撮影、編集まで学生が行う。動画はしらすの水揚げ、加工、流通などテーマを決めて作成し、閑上しらすの質の良さも映像でPRしたいと考えている。

Q：今年度作成する動画はどのように周知・活用していくのか。

A：市や閑上地区の企業ホームページに掲載いただき視聴できるようにするほか、商品のパッケージや販促物に二次元コードを記載し、そこから動画を視聴出来るようにすることで閑上しらすのPRをしたいと考えている。また、市内でしらすを取り扱う飲食店にも同様に二次元コードを備え付け、利用者が食事の提供を待つ間に動画を視聴出来るようにしたいと考えている。

Q：地域住民や子どもたちに認知を広げていく取り組みで計画しているものはあるか。

A：シー・ラッサーをスーパー等で販売される商品のパッケージに記載することを計画している。先般、本事業で制作したシー・ラッサーのクリアファイルを市内小学校へ届け、このうち閑上小中学校にはシー・ラッサーが直接クリアファイルを届けた。その際、多くの子どもたちがシー・ラッサーのもとに集まったこと、また、学校内の掲示物にもシー・ラッサーが利用されていたことから、シー・ラッサーの人気や認知度は高まっているものと感じている。市内のスーパー等でシー・ラッサーが記載された商品子ども達が見つけ、購入されることで閑上しらすのPRにつなげられたらと考えている。

■「きくらげに関する調査研究」（午前9時30分～午前9時55分）

株式会社一路 日浦盛次

尚綱学院大学（教育研究支援課）佐々木真也

申請者より申請資料に基づき、昨年度実施内容と今年度の計画内容について説明を行い、質疑応答を行った。

Q：新たな製品開発として現時点で計画している内容は。

A：きくらげと相性の良い市内の特産品と組み合わせた製品を開発したい。学生からも多くのアイデアが挙げられているところであるが、現時点ではしらすときくらげを組み合わせた製品を開発し、瓶詰めやパック詰めした上で販売出来ればと考えている。

Q：飲食店で生きくらげ提供についてはどのように進める予定であるのか？

A：市内飲食店向けに、中華料理以外にも小鉢や丼物で提供できるよう調理方法等も含めて提案し、名取市産きくらげの知名度向上につなげたい。

Q：国内でのきくらげの流通状況について確認したい。

A：国内で流通するきくらげのおよそ90%が海外産である。国内では宮城県の生産量が一番多く、その中で名取市産きくらげの生産量が最も多い。

(イ)審査結果取りまとめ

事務局より各事業者評価表の総括表を各委員に配布し、結果内容を読み上げ、2者とも全ての項目で平均3点以上となった旨報告を行った。

委員長より、審査結果に基づき2者とも採択することで全委員の了承を得た。

(4) 閉会

事務局より今後の手続きについて、本日の審査結果を市長に報告した後、補助金交付の可否を決定の上、市ホームページにも結果について掲載したい旨説明し、了承を得て審査会を終了した。